

「武庫川国文」第八十六号 抜刷
平成三十一年三月二十日 発行

citation and similar papers at core.ac.uk

古今詩文詳解第一〇一～二五一集
所収作品目録（上）

柴田清継

brought to

古今詩文詳解第一〇一（二五一集所収作品目録（上））

柴 田 清 継

【前言】

『古今詩文詳解』は、明治初期の漢詩文流行の背景の下、『明治詩文』（明治九年から十四年にかけて刊行）と並び、最も勢力があり、名高かつた詩文雑誌とされている^①。

②三浦叶『明治漢文学史』（汲古書院、一九九八年）上篇第二部「明治の漢文」、四、「詩文雑誌」。

『古今詩文詳解』は、成章社（明治十六年五月二十五日発行の第九十集から「成章館」と改名）を版元として、明治十三年十二月五日に第一集が発行された。現在大学付属図書館を含む公共図書館に収蔵されている最も晩く発行された集は、同二十年十二月の第二五一集である。本誌刊行の趣旨は、第一集所載の「社告」により最もよく窺うことができると思われるので、次に掲げよう（一部変体仮名が使われているが、現行の仮名に改める）。

社告

詩文ノ功用タルヤ政事風俗他百般ノ事情ニ於テ各自ノ思考スル所ヲ当世ニ顯シ以テ彼此ノ情意ヲ通シ又此ヲ後來ニ伝ヘ後人ヲシテ古昔ヲ徵スルノ便益ト為サシムルニアリ然リ而シテ昔時人詩文アリト雖トモ概ネ深ク之ヲ筐底ニ藏秘シ肯テ容易ニ他人ニ示サス故ニ其ノ詩文ノ人間ニ出ルヤ大抵其ノ人既ニ物故セルノ

後チナリ是ノ如キハ其ノ後來ニ伝フル所以ハ則チ有リ其ノ当世ニ顯ス所以ハ則チ無シ加之ス其ノ後來ニ伝播スル所ノ者ハ僅々一二大家ノ作ノミ餘ハ深意卓識アリト雖トモ概ネ皆湮没シテ出ルコトナシ豈遺憾ナラスヤ方今ハ乃チ然ラス新聞アリ雑誌アリ諸家詩文ノ作アルヤ記者概ネ之ヲ其ノ紙上ニ掲載シ諸家亦昔時ノ如ク之ヲ筐底ニ藏秘スルコトナシ故ニ其ノ詩文其ノ意思ノ後來ニ伝播スルハ固ヨリ言ヲ俟タス当時ノ人依テ以テ直ニ當時ノ事情ヲ知り初学ノ者依テ以テ己レノ文思才識ヲ開発スルノ裨益ヲ得ヘシ其レ然ル後始メテ詩文ノ功用ニ於テ完全缺クル所ナシトイフヘキノミ且近來我國支那ニ朝鮮ニ交際日ヲ逐テ親密ナルヨリ世人ヲシテ益々詩文ノ講セサルヘカラル所以ヲ知ラシメタリ此ニ我社発行スル所ノ者ハ広ク日清現時諸家ノ詩文（間々欧米諸家ノ詩文ヲ漢訳セシモノ）ヲ蒐集スルヲ主トシ之ニ故人ノ作一二ヲ附載シ悉皆名家ノ評論ヲ付シ每集俗語ヲ以テ簡明ニ其意ト法トヲ解釈スルモノニシテ名ケテ詩文詳解ト云フ是レ其ノ意衆人カ日清現時ノ事情ヲ知ルノ一助トナシ併セテ詩文ニ從事スル初学ノ裨益トナサントスルナリ然レトモ我社中ノ浅学寡聞ヲ以テ妄ニ其ノ解釈ヲ為スハ大方君子ニ敬意ヲ失フノ譏ヲ免レス而シテ敢テ之ヲ為ス所以ハ特ニ山野僻陋師友ニ乏シキ人ノ為メニ計ルノミ但其ノ掲載スル詩文ノ如キハ皆日清現時

諸家ノ傑作ニシテ其ノ評ノ如キモ名家ノ卓見ニ係ルナレハ何人モ論セス必ス一覽シテ裨益アルモノトス故ニ四方ノ諸彦我社中浅学寡聞ノ解釈アルヲ以テ其ノ掲載スル詩文ヲ并セ蔑スルコトナク毎号購求シテ机上ノ清玩トナシ且錦囊ノ秘蓄アラハ惜ムコトナク投寄アラランコトヲ希望ス

成章社幹事敬白

③蛇足であるが、これら二つの「当時」は現在、今の意。

和文であるから贅言するまでもないと思われるが、一応その要点を整理しておくと、本誌刊行の社会的背景として、主に次の二点を挙げられている。

一、新聞・雑誌が刊行されるようになったことにより、「政事風俗他百般ノ事情ニ於テ各自ノ思考スル所ヲ当世ニ顯シ以テ彼此ノ情意ヲ通シ又此ヲ後來ニ伝ヘ後人ヲシテ古昔ヲ徵スルノ便益ト為サシムル」「詩文ノ功用」が、以前とは異なっており、十分に發揮されるようになり、初学の者もこれにより「文思才識ヲ開発スルノ裨益ヲ得」られるようになったこと。

二、近來、漢詩文の文化を共有する中国や朝鮮の人々との交際が親密になってきたこと。

このような時代の状況に応じ、広く現在の日清両国の詩文、及び一部の故人の作品を掲載して、いずれにも名家の評論を付し、作品には和語による簡明な注解（作品中には要旨等の説明、欄外には「釈義」「訓典」

を加えて刊行し、以て「衆人カ日清現時ノ事情ヲ知ルノ一助トナシ併セテ詩文ニ従事スル初学ノ裨益トナサントスル」ことが、その狙いとされている。「初学ノ裨益」となることを重視したためであるが、詩文にはすべて調点が施されている。

作品に付された評は、「例言」の一項に「諸家詩文ヲ投寄ヲ惜ム勿レ且既ニ他家ノ評アルモノモ附送セラレンヲ乞フ」とある通り、作品の「投寄」者自身が誰かに請うて付してもらったものがほとんどであるが、間々「社評」も見られる。「社評」を付した中心人物は、第一集であれば、巻末にそれぞれ「編輯兼印刷長」、「補助」として記載されている村山義之と荒野文雄ということになるが、巻末記載の編輯長等、さまざまな業務担当の人名は細かく移り変わっていく。できることなら初めに述べておくべき重要問題ではあるが、本誌刊行に関わった人物群については今しばらく調査を続け、本稿（下）の冒頭で調査結果を発表することにしりたい。

さて、本誌の体裁は、通例、最初の二十乃至二十数頁に作品が「文」「詩」の順に配列された後、さらに広告掲載部分を含む数頁が続くのであるが、この数頁の中心をなすものは、第一集から第二集までは「辨疑」第二十六集以後は「文苑雜話」である④。「辨疑」は、「例言」では「末尾ニ辨疑ノ一欄ヲ設ケ初学ノ為メニ歴史文章等難解ノ条ヲ説明ス」と特記されており、上述の各作品に付された注解とともに、「詳解」と銘打った本誌の特色となる重要な部分であると考えられる。第一集の第一条を例として挙げよう。

④第二百一集から第二百五集までは、「文」「詩」配列の後には、以前の号から継続して掲載されていた「臨時畧報」と広告頁のみとなっている。「臨時畧報」は「当館ノ報告又ハ看官社友諸家ノ囑托ニ本キシ簡短ナル通報或

ハ依頼ニ係ル時事ノ雜件等其大意ヲ畧記報道メ以テ公ニ音信スルノ一便トナス」ことを趣旨とするものである。

問 項羽本紀贊ニ曰フ羽豈其苗裔耶何興之暴也ト暴ノ字暴富ノ

暴トナシテ解スヘキカ

答 宜シク暴戾ノ暴ト見做スヘシ蓋シ此文舜ヲ引キタルハ項羽ノ暴戾ヲ形セン為メナリ

このように主として典故等について説明したもので、その条目は第百集までで千九百九十六条に達している^⑩。

⑩この条目数は、『自第一集至第百集 古今詩文詳解目錄集』（成章館、明治十六年十二月）が第百集の「辨疑」の最後の条目に「第千九百九十六条」と通し番号を付けているのに拠る。但し、各誌の誌面には番号は一切付けられていない。

一方、「文苑雜話」は、初出の第二百十六集によれば、「此欄内ハ凡テ文学上有益ト認ムル事項ヲ見ルニ随テ掲載ス」るもので、同集では村山鶴堂が「原題名ヲゼ、ヒストリー、ヲフ、サンドフホルド、エンド、メルトン、ト云ヘル英文ノ教育小説ヲ訳述」している。

以上、本誌の体裁・内容等について主として「社告」に基づき説明したが、これらのことに關しては、上記の「例言」のほか、毎集巻頭もしくは表紙に掲載されている敬字中村正直の「題辭」もある。

注釈の有用性について説いた五言二十二句の漢詩である。^⑪

⑪なお、本誌については三浦叶も注一所携の著作の中で簡単な紹介を行っている。

さて、実際に各集を通覧してみると、「社告」から受ける印象と

はやや異なる点がある。それはまず、清国人の作品の掲載数がさほど多くないことである。したがって、本誌の閲読が「日清現時ノ事情ヲ知ルノ一助ト」なるか否か、やや疑念が残る。次に、「故人」の作品もさほど多くなく、また、せいぜい江戸時代の人物がほとんどであることである。誌名の「古」の字は、むしろ「釈義」「訓典」「辨疑」で古い時代の作品に数多く言及する点にマッチしているようにも感じられる。

もつとも、以上のような、誌名や「社告」と実際の内容との微細なずれは、当然のことながら、編集者が初めに立案した事柄が、実際に運営してみると、若干の変更を余儀なくされたという程度のことであろうと思われる。

さて、本誌の第百集までについては、その所載作品名・作者名と「辨疑」の質問項目を記載した『自第一集至第百集 古今詩文詳解目錄集』（成章館）というものが明治十六年十二月に出版されている。これを承け、筆者は第百一集以下の集につき目録を作成し、二回に分けて発表することにした。但し、「辨疑」の項目は設けない。その理由は、第一に紙幅を取りすぎることに、第二に詩文の典故等については、百三十数年後の今日では種々の工具書やインターネット等により、はるかに調べやすくなっていることである。

【凡例】

一、各集、初めに発兌年月日を記し（「明治」は略す）、その国内の収蔵機関を略号で記す。略号の表す正式な機関名は次の通り。

「宮」宮城県図書館、「福」福島県立図書館、「都」東京都立中

中央図書館、「新」新潟県立図書館、「鶴」名古屋市立鶴舞中央図書館、「西」西宮市立中央図書館、「東文」東京大学大学院人文社会科学研究所・文学部図書室、「東法」東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法制史料研究センター、「国」人間文化研究機構国文学研究資料館、「武」武庫川女子大学附属図書館。

二、「文」「詩」の見出しの後、「文」の題には「□」を、「詩」の題には「○」をそれぞれ冠する。「詩」の中には、わずかながら、「詞」の作品も含まれている。「詞」の題には「◎」を冠する。三、本誌では題が長めの場合、「」で区切られていることがあるが、本目録では「」はすべて「」に置換する。

四、詩詞において複数首（関）を統括する題が初めに示されている場合は、その題を「□」で括って掲げ、以下、「○」または「◎」を冠して各首・関の小題を記す。

五、本誌では同じ作者の作品が連続する場合、二つ目以降には、「同（全）」「同（全）人」等と記されていることが多いが、それらの語が明記されていないこともある。明記されていない場合、本目録では「同前」の語を添加する。

六、本誌で作品名・作者名に付された割注は、本目録ではポイントを落とすだけで、割書きにはしない。

七、本誌では第百五十一集以降、巻頭に目次が置かれるようになるが、目次と本文中の記載が完全には一致しない場合がある。本目録では原則として本文中の記載に基づくこととする。

八、以上の規定外に属する事柄は、その都度注記することにする。

【目録】

第百一集（十六年九月十五日） 宮、福、都、鶴、西、東文、東法

文□高島秋帆書幅記 朗庵坂谷素故人。□望岳居記 本田種竹。

詩○詩文詳解百集発刊祝詩 大江敬香。○新秋夜坐玉川吟社席上得屋

韻賦五絶句 長梅外。○七月念四訪遂軒詞宗于浪華會根崎村寓、席

間賦呈 剛腸野上瀧三在神戸。○剛腸野上君見訪席上有詩次其韻却

呈 遂軒閑徳在大坂。○富岳 竹峠北条利昌。○蚤作吟 三舟渡辺登

第百二集（十六年九月二十五日） 宮、福、鶴、西、東文、東法

文□文章指帰序 瓮江川田剛。□代麴秀才答某生書 三溪菊池純。

詩○七十自寿原四 仏山村上剛古人。○孤鴈 鵬処北条直。○夏山

行旅図 約斎松岡操播磨人。○病中漫吟十首節三 松莊多田省一岡山人。

○寄三蕉中村君次往年見贈詞韻 竹軒後藤懋。○溪橋歩月 霞庵関

沢力蔵。○驟雨即事 江南窪木清。○過遠州洋 鵬飼登成。○寄懷

荒野子誠在函根 渡辺印南。○余頃有腦疾、今茲八月養病函根、坐

湯之間務省思慮、僅得二首 文雄稿。○次植松有常韻有常同行 全。

第百三集（十六年十月五日） 宮、福、都、鶴、西、東文、東法

文□同門旧友会記 学海依田百川。

詩○伊香保 全人。○榛名山 全人。○又 全人。○題河杉規忠

墨帖 奥宮三省佐倉人。文。○明治十年之役、警視兵中、別選鋭兵

一百人、号拔刀隊、皆執刀斫賊壘、破田原本留植木等賊有功、而死

者三十許人、頃同事者設七周年祭於靖国祠、乃以詩薦之 三洲長英。

○咏木芙蓉 黒木欽堂。○次韻原二首 本田種竹。○寄懷種竹本田

詞兄茉莉原韻錄一 新居湘香阿波人。○賦賀北条書室新成 関桂林清

国北京人在東京。○容膝処葺後、荷関夫子賜章、次韵写懷 鵬処北条直。

○寒士躬耕図 棕園赤松渡。○暮春過墨江有感四首節二 鳳岡荒木寅

三郎。○新秋感懷 紫水藤井勲。○敗荷 泰庵中川泰東京人。○題画二首 野田靜軒在岐阜。

第一百四集（十六年十月十五日） 宮、福、都、鶴、西、東文、東法

文□与市村春卿書 三溪菊池純。□自然莊會詩文第一集序 午橋岡本斯文。

詩【小令七闋】◎一絡索小令調名秋懷 北条直方。○貧也樂一名梅花引秋思 同前。◎婦自遙 冬夜 同前。◎一絡索 臥病詞 同前。○棗棘魚上市 楓陰閑永在神戶。○咏史 石津灌園西京人。○江村晚景六言 竹峠北条利昌。

第一百五集（十六年十月二十五日） 宮、福、都、鶴、西、東文、東法

文□与藤沢東峯書 節齋森田益古人。

詩○桃花洞歌并引 種竹本田幸。【小令七闋 前号ノ続キ】◎相見歛 閨詞二闋 北条鷗所。◎減字木蘭花 春夕 同前。○早秋書懷 大江敬香。○秋夜 同人。○偶歎 星堂中野簡。○游雲水庵二首 岡本晤叟阿波人。○支那客中口占 小西皆雲在広島。○偶成 清陰竹内正智在東京。○次詩文詳解百集発刊祝詩之韻 三舟渡辺誓。

第一百六集（十六年十一月五日） 宮、福、鶴、西、東文、東法

文□祭民部大輔岡公文 学海依田百川。□竹亭翁墓碑銘 晚香錦織積磐城人。□渡辺華山剪舌雀橫披引 小舟小永井岳。

詩○秋晚千葉客舍送県吏長谷川某婦省米沢 柳溪安川惟礼上総人。○題目画花卉木 全人。○詩文詳解將刊百号賦之似社友 種竹本田幸。○萱丞相 約齋松岡操播磨人。○送小湊翁婦省山口県与三溪・如意・鳳陽・天江・双橋諸老・清客陳曼寿・葉松石二子・及都下諸文士同、分温飛卿秋夜別人詩句、得市字 芳南前塚綱。○咏史 同人。○咏史 桑村榊原育寿。○秋曉感懷 同人。○秋夜不寐枕上有

作 大江敬香。○再遊後樂園録二原五 同人。○絶句 岡本午橋。○感秋 霞庵関力藏。

第一百七集（十六年十一月十五日） 宮、福、鶴、西、東文、東法

文□答坂井先生書 茗圃臼井龜福岡人時年十三。□碩翁 学海依田百川。

詩○游画島 鷗所北条直方。○咏史 竺五岳。○吊拔刀隊戰死七回忌 大内青巒。○秋日有感草一律寄平山機陽翁在靜陵 大江敬香。○梅花二首節一 蘇山義応。【深奥山十詠山在遠州引佐郡寺日方広寺係後醍醐天皇子無文元還禪師開基】○赤城古梅辛巳歲遇災 友石妻鹿廉。○石橋羅漢

漢 同前。○贊袁中郎画 漁村海保元備古人。○武蔵坊辨慶過安宅関図 蘿谷久保篤。○九月二十五日大沼子寿同社中諸子觴余於小湖某図、席上分得覃韻 松塘鱸元邦。

第一百八集（十六年十一月二十五日） 宮、福、鶴、西、東文、東法

文□日本千字文序 三洲長莢。□全 敬字中村正直。□送長倉石溪赴任新潟県序 村上珍休。□古堂文抄序 芳漢呉秀三。

詩○秋晴行圃玉川吟社席上得侵韻五首 長梅外。○同三島中洲木原老谷諸子游春名山原六 梅坪学人川島浩在埼玉。○香村雜吟節一 青霞樵夫諸葛卯之助在埼玉。○唐妹棧道懷古 巖水内藤吉郎太弘前人。○癸未晚秋窪木江南雅兄、示詩求和、余適塵事軼掌、無暇磨韵、因書贈近作一律、以塞其責 磯山三湖。○寄三湖詞宗 窪木江南。○秋夜对月分韵同種竹賦 大江敬香。○題淵明婦居図 宮内赤城北総人。

第一百九集（十六年十二月五日） 宮、福、鶴、西、東文、東法

文□先君子碑銘 午橋岡本斯文。□送御園生宗桂赴長野県序 悔庵城井寿章。

詩○重過湖亭寄懷竹崖家兄在広陵 鷗所北条直方。○偶感 桑村

神原育寿。○与旧友横山翠雲、不相見五年、頃日相逢与飲湖上某樓
夢処平田慎。○秋水 梶船永田道鱗。【深奥山十詠百七集統】○金山
妖石 友石妻鹿廬。○帰休櫛杖 同前。

第一百十集（十六年十二月十五日）宮、福、鶴、西、東文、東法

文□遊天保山記 平陽吉田喜。□送森靜修帰米沢序 栗堂長井吉
徳山形畧人。

詩○暮秋帰湖上草廬 印南渡辺充。○香村雜吟 梅坪川島浩。○
豆州温泉雜詩錄三 桂園秋場祐下総人。○冬晚 學圃福井繁東京人。○
冬日雜詩 竹海斎藤実顓。○初冬雜吟 松淵渡辺讓。○贈菊池三溪
翁 大江敬香。○偶感 仲磨祖山甲斐人。○得郷書 三舟渡辺誓。

第一百十一集（十六年十二月二十五日）宮、福、都、鶴、西、東文、東法

文□角觥者陣幕伝 不鳴井上黙。□三井錦江翁碑 敬字中村正直。
詩○夜坐偶感攀得菴居士韵 本田種竹。○江樓夜坐 全人。○贈
敬香大江君 巽軒井上哲次郎。○論詩寄敬香大江君 同人。○葬兄
冰青山有作五首 長梅外。○送葬之夕聽雨作。○癸未三月、余漫游
到静岡、病臥客舎、西尾蘭蹊迎余、移其別館、看護甚至焉、一日語
余曰、僕与斎藤拜石、交甚熟、每到東京、必以拜石為東道主、去年
夏、拜石寄書曰、將往游、僕欲下一間靜地館之、而市井紛雜、無適
意者、遂命築此館、々成而不来、事属徒為、今辱先生惠顧、始掃徑、
開門則義之属徒為者、亦非徒為矣、余聞其言、感歎賦一詩、以示之
兼寄拜石 古雪長冰。

第一百十二集（十七年一月五日）宮、福、鶴、東文、東法

文□說五山堂詩話 雪窓五弓久文。□芭蕉 学海依田百川。
詩○梅影四首次韵 桑村神原育寿。○題某詩集二首 東湾斎藤亨
南総人。○題松洲画蘭竹合図 森春壽。○对梅絶句録六 竹崖北条利

昌。○月下贈吹笙人 芳南前塚綱。○不倒翁 岡本晤叟。○偶成
三舟渡辺誓。

第一百十三集（十七年一月十五日）宮、福、鶴、東文、東法

文□悠然舊記 破天荒斎松平康国。□代儀狄上某先生書 黄文勇。
詩○雁字偶說袁石公集中有此題戲仿其体 半峯堀江章。○題匏菴翁塑像
月前居士。○聞湖山翁、荷賜硯之恩、暫帰本国、賦此為贈 高古香
武藏人。○次東坡北臺雪詩之韻 銀臺黑原和友。○甲申新年 大江
敬香。○鴻臺懷古 夢処平田慎。○新年作 学海依田百川。○元旦
六言 印南渡辺充。○晴天鶴 全人。○新年偶得五首節三 果堂植松
彰。○除夜 全人。○書懷抑体 三舟渡辺誓。

第一百十四集（十七年一月二十五日）宮、福、都、鶴、東文、東法

文□松田正介伝 横山謙。□祭真山子福文 竹海斎藤実顓。
詩○及調南歌子 春雨詞 驅処北条直方。◎同調 同前。○初春
有述 佐々木支陰。○遣興。○墨水治春詞 溪山堀鼎。○新田左將
墓 竹陰永山重正岩代人。○參議伊藤公東下、駐車於福島特召賜坐語、
無任感激之至、乃賦此呈左右 半峰堀江章岩代人。○晚秋 松淵渡辺
讓。

第一百十五集（十七年二月五日）宮、福、鶴、東文、東法

文□玉壺長野君墓碣銘 学海依田百川。□長三洲書孤憤篇墨本跋
灌園石津発。□寒翠亭記 愛軒服部章。

詩○雁字百十三集統 半峯堀江章。○癸未晚秋寄拙著于本田種竹詞
兄附以近製 島地黙雷。○歲晚感懷 大江敬香。○次韵博榮 江峯
松村芳東京人。○新年口占 双明丹羽翥。

第一百十六集（十七年二月十五日）宮、福、鶴、東文、東法

文□泰西格言序 恕軒信夫榮。□与西京友人某書 確堂中村鼎五。

詩○環碧樓雜詩以小樓容膝安為韻 羽峰南摩綱紀。○誦詩文詳解、寄贈成章館 芳南前塚綱。○人日小集、賦似來賓、次韵 月前居士渡辺孝。○春日江上 羽峰南摩綱紀。○客中倦歲 夢香矢田新豊後人。○論庭趣 桑村榊原育寿。○秋日寄懷友人 松淵渡辺誠。

第百十七集 (十七年二月二十五日) 宮、福、鶴、東文、東法

文□桜井如山墓碣銘 依田学海。□与藤沢南岳書 午橋岡本斯文。詩○堯聖城、用草場船山翁韵 島地默雷。○寓居漫吟 芳南前塚綱。○秋 同人。○一月十七日夜雪作 桑村榊原育寿。○翌十八日晴。○拜年、寄枕山翁、代東 月前居士渡辺孝。○百春詞第一 溪山堀鼎。○贈川島桃蹊 省廬白石健埼玉泉人。○寄堀川春江詞宗 梅窓綾部嘉八肥前入。○曉過境浦 孤雲岡崎桂一石川泉人。

第百十八集 (十七年三月五日) 宮、福、鶴、東文、東法

文□柴山神社碑 瓮江川田剛。□袖雲石記 三溪菊池純。詩○溪行 竹海齊藤実穎。○贈鎌田醉石翁 敬香大江孝之。○觀四十七士像 松莊多田省一。○清女捲簾圖 同人。○次韵示客癸未作 月前居士渡辺孝。○無題 夢処平田慎。○星巖翁墓 芳南前塚綱。

第百十九集 (十七年三月十五日) 宮、福、鶴、東文、東法

文□読社僧房記 敬字中村正直。□登津峰記 晚翠橋本維孝。□廻瀾集叙 三郊杉山令。

詩○井上巽軒君將之欧州、二月十日開別宴于湖心亭、重野成育、小野湖山、大沼枕山、南摩羽峰、信夫恕軒、大槻復軒諸君、分杯賦詩、余亦与焉、草一律贖之 大江敬香。○偶成四律 吳琴溪清人。○鴻臺覽古 銀臺黑原和友。○題画 五弓雪窓。○和錦原城井君遊絵島韵 本田種竹。○送某僧之支那 掠園赤松渡。○春夜偶成 梅軒高

木遷。○春江泛舟聯句 山崎文海 星野青雲。○予每年、觀梅龜戸村、今年亦往、戲賦此詩、時花間有語、曰為君々々、怪而視之唯香氣滿衣耳、呵々 三舟渡辺誓

第百二十集 (十七年三月二十五日) 宮、福、鶴、東文、東法

文□送井上君遊學歐洲序 羽峯南摩綱紀。□養氣編序 敬字中村正直。□養浩堂記 岡本斯文。

詩○巽軒井上君將遊學獨逸國、二月十日、設別宴於湖上、招飲同人、余有故不得陪、賦此送呈、即請教正 向山黃村。○自題肖像節五 掠園赤松渡高松人。○太谷觀梅 本田種竹。○中丞訪小督圖 相馬勁堂相模人。○宿巫山泉舟中 艾颺春清人。○秋夜漫成 同。○海樓望月 熾々渡辺美好。○人情 三舟渡辺誓

第百二十一集 (十七年四月五日) 宮、福、鶴、東文、東法

文○故津崎村岡刀自碑 成齋重野安繹。○経国美談後篇叙 学海依田百川。○書木原老谷藏藤森弘菴墨蹟後 竹海齋藤実穎。詩○春山讀書圖 同人。○梅影四律次姚文棟韵 本田種竹。○春夕 学圃福井繁。○劍閣 艾颺春清人。○夏景戲仿劍南体五首節⑥張廷瑞清人。

⑥「五首節」の後に「二」の字を脱していると見られる。

第百二十二集 (十七年四月十五日) 宮、福、鶴、東文、東法

文□仏国会計規則序代作 学海依田百川。□足利開鑿二重坂路記 瓮江川田剛。○題尼蓮月和歌 果堂植松彰。

詩○新年作 錦江朽木暉在東京。○偶題 桑村榊原育寿。○次桑村榊原詞伯一月十七夜雪中之韻 月前居士渡辺孝。○梅花九首用高青邱韻節三 勁堂相馬千里。○落葉 同人。○暮秋從落合先生游蜂窠巖 嶮南平部温卿。

第二百二十三集（十七年四月二十五日）宮、福、鶴、東文、東法

文□淺野高勝伝 雪窓五弓久文。□倭画志伝序 学海依田百川。

□棘蠶魚歌送人帰讃岐 毅堂鷺津宣光告人。

詩○股野達軒翁七秩寿詩次其自祝韵 大江敬香。○柴原議官宅觀

梅、川田甕江、長松秋琴、巖谷一六、股野藍田、日下部鳴鶴、岡本

黄石、小野湖山、三島中洲、成島柳北其他諸彦来会、余亦与焉 月

前居士渡辺孝。○百春詞 溪山堀鼎。○西京客中作 椋園赤松茂。

第二百二十四集（十七年五月五日）宮、福、鶴、東文、東法

文□雲鳳女史墓碣銘 恕軒信夫祭。□文章千古引 竹海齊藤実顯。

□甲申四月十六日、与秋溟岩崎書記官、応学海依田書記官招、觀桜

於其晴雪樓、樓在墨堤東數十步、此日晴暖無風、堤上遊人絡繹、紅

塵漲天、而樓上幽靜、唯觀花而不觀人極爽快学海日引中有詩三島中洲曰一

句尽晴雪樓、乃以花塢夕陽遲為韻賦五篇 羽峯南摩綱紀。□全上 学

海依田百川。

詩○送鹿門遊清国四月十二日鷗夢樓席上 向山黄村。○次韵梧窓遠

海遭颶風見寄 同前。○春日書感 愛茗鈴木民婦之輔常陸人。

第二百二十五集（十七年五月十五日）宮、福、鶴、東文、東法

文□与斎藤子德書 雪窓五弓久文。

詩○同南摩教授招飲于依田書記官墨水別墅、以花塢夕陽遲為韵

秋溟岩崎維謙。○随使東瀛于今兩載、甲申春奉節使命、将游歷内地、

流覽山川名勝、采摭詩辭、為觀風之助、行期有日率賦短章、留別同僚、

并遣日東諸文学而徵詩辭焉 黄超曾清人。○春晚出遊 同前。○鎌

田玄溪来訪、席間賦似玄溪中備人 晚翠橋本維孝。○四月十九日岡崎

孤雲招飲、席上作此 大江敬香。○霜 雪香犬塚敏。

第二百二十六集（十七年五月二十五日）宮、福、鶴、東文、東法

文□故佐久諏訪二郡主右衛門佐依田公遭烈碑 学海依田百川。□
愛国叢談序 鹿門岡千仞。

詩○癸未之冬重卜居於東京三番街十八韻 黄石岡本廸。○白燕

邱璋清人。○四月十九日東台酣春樓小集、同神波即山、松原竹秋、

岩溪裳川、奥田抱生、関沢霞菴、林春郊、北川龜域、鈴木愛茗賦、

分韵得東 大江敬香。○春雨江村 銀臺黑原和友。○題牛疊図 鷗

処北条直方。

第二百二十七集（十七年六月五日）宮、福、鶴、東文、東法

文□原仲寧遺稿序 成斎重野安緯。□賀大戸弥兵衛六十初度序

雪窓五弓久文。

詩○春日墨江次韵友人見示 向山黄村。○漫吟四首次丁野丹山韵

録二 一六巖谷脩。○峡中懷古 即山神波桓。○贈国井周太郎 森

春濤。○贈大江敬香兄 坪井咬菜。○春雨過墨川 学圃福井繁。○

野渡 同人。

第二百二十八集（十七年六月十五日）宮、福、鶴、東文

文□鰐水江木先生墓碣銘 中洲三島毅。□吟鞭一着杜集序 薇山

西毅一。

詩○江寺春殘 向山黄村。○初夏書感三首同韵 桑村榊原育寿。○

駿州道中 禹川小山正武。○四月廿一日逢家兄於東京客舍 愛茗鈴

木民婦之輔。○春日臥病 鶴峯鞍懸勇。○春日江上第一 学圃福井繁。

○春夜 江南窪木清。

第二百二十九集（十七年六月二十五日）宮、福、鶴、東文

文□孺人野村氏墓誌銘 西疇萩原裕。□山県昌貞伝 鹿門岡千仞。

□昆山片玉二篇序 悔庵城井寿章。

詩【六名賢図贊為丹吳俊平氏囑、図則武藤松洲所作】○陶淵明清

節 森春濤。○李太白翰林 同前。○陸鴻漸烈士 同前。○桑名西遊記
景詩之内 大江敬香。○昭君怨四闋 秋夕咏懷 鷗所北条直方。○晚
酌寄懷故鄉旧友 月前居士渡辺孝。○呈大江敬香大吟臺第一 硯池
楊錦庭清客在撰。

第三百三十集 (十七年七月五日) 宮、福、鶴、東文

文□中垣先生碑 甕江川田剛。□別有天地樓記 鶴峰鞍懸勇。
詩○函嶺湯本駅宿万翠樓用樓名得二首第一 全。○雲林讀書圖
全。【六名賢図賛前集続】○黄魯直太史 森春濤。○蘇子瞻玉局 同前。
○林君復和靖 同前。○先君忌辰、祭罷悵然有賦 月前居士渡辺孝。
○墨水治春詞六首第二 南陔茅原廉。

第三百三十一集 (十七年七月十五日) 宮、福、鶴、東文

文□読鉄心遺稿題其後 花南丹羽賢。□書三星帖後 竹海斎藤実
顯。○初夏閒居^①。□浩斎福田翁墓表 犀陽野口常共。
詩○祭詩 三洲長英。○湖上晚秋偶興 向山黄村。○過山海関望
萬里長城 韋菴岡本監輔。○詠菊 即山神波恒。○春日江上次福井
學圃韵 大江敬香。○涼夜舟中限韵 同人。○初夏山村 雪香犬塚
敏。○春草 銀臺黑原和友。○京城四時雜詞第二 梅軒高木遷。

①「初夏閒居」詩は、文が並ぶ中に位置している点と、作者名が記されて
いない点が異例であるが、竹海斎藤実顯が「書三星帖後」の文と併せて投
稿したため、このような扱いがなされたものと思われる。

第三百三十二集 (十七年七月二十五日) 宮、福、鶴、東文

文□贈松本恪堂序 雪窓五弓久文。□送海門肝付翁游東京序 栗
堂永井吉徳在山形。□読劉海峰焚書歸 鹿峰西尾為忠。
詩○春水滿四沢第一句 三溪菊池純。○夏雲多奇峰第二句 同前。
○賜暇移榻岡氏江陽書屋、贈土燐 錦山矢土勝之。○岐蘇川西遊記景

詩抄出 大江敬香。○鎌倉懷古 南陔茅原廉。○菊次韻 総生寛。

第三百三十三集 (十七年八月五日) 宮、福、鶴、東文

文□吉田家譜序 雪窓五弓久文。□節斉遺稿序 穂峰四屋恒之。
詩○秋月揚明輝第三句 三溪菊池純。○冬嶺秀孤松第四句 同前。
○初夏追次東湖翁詩韵 同前。○京城四時雜詞第二 前集続
木遷。○筑松陽野口君墓 錦山矢土勝之。○湖亭涼酌限韵三首第一
松洲渡辺讓。○雨後俄涼限韵 金城岡野熊。○江村即事 黄文勇。
○城山懷古 江南窪木清。

第三百三十四集 (十七年八月十五日) 宮、福、鶴、東文、東法

文□清名家經史論纂序 春山小山朝弘。□祭花園種芍藥記 午橋
岡本斯文。□涉史偶筆後序 愛軒服部章。

詩○甲申六月磐溪大槻先生七回忌辰令嗣如電復軒二君設祭於不忍
池仏寺恭賦以呈 学海依田百川。○同 羽峰南摩綱紀。○七月十六
日夕有感 大江敬香。○謁菅公祠 華洲渡辺孚。○幽居初夏雨霽
学圃福井繁。○春夜 江南窪木清。○餞雁 三溪菊池純。○暮春絕
句 秋水筒井載。○近詠十六首之一 岩溪袁川晋。

第三百三十五集 (十七年八月二十五日) 宮、福、都、鶴、東文、東法

文□贈清国欽差大臣何子峨序 春山小山朝弘。□蠹說 竹海斎藤
実顯。○浴沂風詠引 松陽野口常共。

詩○次韵益堂荒野君夏日江都第二 印南渡辺充。○題詩法纂論統
編後 関根痴堂。○鎮西八郎 蘿谷久保篤。○壬午秋日自述近况
寄深井山田二子、二子在京榮進、結聯故及 同前。○小寓雜咏 鷗
処北条直。○江樓即興 孤雲岡崎桂一。○新秋夜坐 大江敬香。
第三百三十六集 (十七年九月五日) 宮、福、都、鶴、東文、東法
文□詠古百首叙 成斎重野安繹。□春山樓文選序 篁邨島田重礼。

□書聲牙先生書牘後 竹海齊藤笑頤。□池亭集飲記 雲外高銳一。

詩○雨夜山寺話怪課題 橋北榊原祇。○夏日偶成 勁堂相馬崇禪。

【日本名賢二十八詠】○可美真手命 紫峰飯田彰常陸人。○道臣命

同前。○日本武尊 同前。○贈栗本匏庵翁 赤城宮內靜北經人。○

哭橋本蓉塘 大江敬香。

第三百三十七集（十七年九月十五日） 宮、都、鶴、東文、東法

文□詠古百首序 瓮江川田剛。□竹堂游紀序 振衣岡千仞。□祭

靖国社文 猗堂秋葉斐。□河田太孺人佐々木氏遺齒塚碑 鹿峰西尾

為忠。

詩○武內宿禰前集統 紫峰飯田彰。○博士王仁 同前。○聖德太

子 同前。○怨鬼詩 橋北榊原式。○綠陰閑棋 同前。○偶感 鷗

所北条直方。○秋柳限韻 孤雲岡崎桂一。○榊原橋北將赴京城、途

次過余廬、即賦此寄呈 江南窪木清。○夏日江行 南陔茅原廉。

第三百三十八集（十七年九月二十五日） 宮、都、鶴、東文、東法

文□談海序 瓮江川田剛。□題家康觀石戰圖 成斎重野安禪。□

遭難詩紀叙 海南藤野正啓。□遭難詩紀跋 鹿門岡千仞。

詩○藤原鎌足前集統 紫峰飯田彰。○藤原不比等 同前。○舍人

親王 同前。○和氣清麻呂 同前。【伊豆伊東七勝詩步城井錦原君

遊絵島詩韻】○新井晴嵐 春江堀川慎在伊豆。○朝光寺秋月 同前。

○岡村暮雪 同前。○松月院晚鐘 同前。○川口鷗 同前。○送堀

川春江之北海道樺戶次其留別韻 禹川小山正武。

第三百三十九集（十七年十月五日） 宮、都、鶴、東文、東法

文□善隣互話序 李樹庭朝鮮人。□和漢孝義錄序 省軒龜谷行。

詩○霜天曉渡 岡本黃石。○菅原道真 種竹本田秀。○秋夜登瀧

山訪三宜菴 同。○哭橋本蓉塘 森槐南。○送堀川春江之北海道樺

戶次其留別韻 大江敬香。

第四百十集（十七年十月十五日） 宮、都、鶴、東文、東法

文□文明東漸史序 敬宇中村正直。□全 匏庵栗本鯤。

詩○辛巳四月遊日本之作 胡鉄梅清人。○抵香山途中作 松塘鱸

元邦。○過詩仙堂懷石川丈山 種竹本田秀。○增上寺 同前。○

甲申重陽上野某樓分韻 池田綠所。○和田夕照伊豆伊東七勝詩統

江堀川慎。○総堂夜雨 同前。○川中島 股野達軒。○漢高斬蛇圖

同前。○項羽訣飲圖 同前。

第四百一十一集（十七年十月二十五日） 宮、都、鶴、東文、東法

文□故長崎県令北島君碑 鹿峯西尾為忠。□送森林太遊學伯林序

學海依田百川。

詩○牡丹 釈五岳。○与江君景桂、岡君千仞、河野君通之、訪目

黑牡丹、有作、是日待石川鴻齋、不至、歸後寄之 姚文棟清人。○

蘭亭集字 向山黃村。○冬日山居 錦湖朽木暉。○題画 同前。○

送中井滋賀県令赴任 月前居士渡辺孝。○江樓小集分韻得天 松莊

多田省一。○郊墅雜賦用青邱韻 大江敬香。

第四百一十二集（十七年十一月五日） 宮、都、鶴、東文、東法

文□文明東漸史外篇序 思軒森田文蔵。□皇朝烈女伝序 學海依

田百川。□文章指帰叙 中洲三島毅。□益軒貝原先生画像賛 竹海

齋藤実頤。

詩○題画 全。○秋夜読鉄如和尚詩卷偶然書其後 全。○春賦曉

装 錦湖朽木暉。○春晴散策 同前。○夏淺溪居 同前。○題江島

凶 鹿峯西尾為忠。○送関桂林先生帰清国 九梅北条鷗所。○秋江

送別 香帥田村復北越人。○胡枝花邦名蘇花 芳南前塚綱。

第四百一十三集（十七年十一月十五日） 宮、都、鶴、東文、東法

文□竹雨山房文集叙 鳳洲土屋弘。□集古十種跋 省軒龜谷行。

□送完公帰撰州宝積寺序 鹿門岡千仞。□送鷹野子銳序 鶴峰鞍懸勇。

詩○自画小品 翠雨日下部東作。○壽巖谷一六萱堂七十誕辰 中

洲三島毅。○秋晚雜句以敗荷殘柳字為韵 敬香大江孝之。○送鎌田

佐賀県令赴任 種竹本田幸。○甲申五月悼亡 嵩古香。○呈竹海齊

藤先生 欠名。○古桂莊八景 晚香錦織積譽城人。

第百四十四集 (十七年十一月二十五日) 宮、都、鶴、東文、東法

文□說惜抱軒文 成斎重野安釋。□日本八大家文集序 清 姚文

棟。□村上仙山七十寿序 聚亭蒲生重章。

詩○入春寒甚、爐頭偶作 晚翠橋本維孝。○晚晴 錦原城井国綱。

○次羽峯南摩翁環碧樓雜詩韻以呈 午橋岡本斯文。○秋夜病中書懷

遠湖内田周平。○晚秋郊行抄一 学圃福井繁。○題画 秋蓬生金沢參。

第百四十五集 (十七年十二月五日) 宮、都、鶴、東文、東法

文□羽前金山修道記 鹿門岡千仞。□雲井龍雄君墓表 人見寧。

詩○琵琶引為福住順賀作 順賀為故伊賀守筒井順憲第二子、幼失

明精音律、最善平曲 学海依田百川。○秋日書懷用宋漫堂韵 全。

○題画 錦湖朽木暉。○退休題玉壺閣壁節錄 王壺長野文炳。○振

別懷古 同前。○幌向太客舍次佐藤兄韻 同前。○度函嶺 鳥尾得

菴。

第百四十六集 (十七年十二月十五日) 宮、都、鶴、東文、東法

文□說離騷 鹿峰西尾為忠。□故陸軍教導团生徒丸君碑 中洲三

島毅。□日本綱紀序 古香秋月種樹。□麴生言 竹海斎藤実顕。

詩○山林冬日分韻得交 枕山大沼厚。○寒鴉枯木図 同前。○夢

醒枕上有作 鳥尾得菴。○過東台 聴秋伊藤介。○癸未三月三日、

会東京諸詩人、修禊于墨江植半樓、兼壽湖山七十、次石埭韻 姚文棟。

○晚秋有感作長句 敬香大江孝之。○環碧樓四時雜咏 種竹本田幸。

第百四十七集 (十七年十二月二十五日) 宮、鶴、東文、東法

文□日本外史前紀序 成斎重野安釋。□曝書記 一六巖谷修。□

吾陋子伝 黃文勇。

詩○書窓梅影 岡本黃石。○冬夜吟 星洲平戸颯。○十月九日夜

深夢覺、書感懷寄五岳上人西秋谷二翁二首 長梅外。○攀梅外先生

見惠高韵、却呈 竺五岳。○再次環碧樓詩韵、呈羽峰南摩先生 種

竹本田幸。○兵庫 聴秋伊藤介。

第百四十八集 (十八年一月五日) 宮、都、鶴、東文、東法

文□退筆塚銘 甕江川田剛。□小笠原修之六十寿序 海南藤野正

啓。□書二松学舎生徒写真図背 中洲三島毅。

詩○菅公画像 黃石岡本廬。○題画 小湊伊勢華在西京。○早春

試步 梅村山田亥吉讀岐人。○楊州絕句支那遊中作 香谷村田叔在西京。

○夢中作 雲外高銳一。○閒適 釈五岳豊後人。○熱海客舍次木山

鴻吉氏韵 蠡舟何礼之。○戈登少将歌 敬香大江孝之。

第百四十九集 (十八年一月十五日) 宮、都、鶴、東文、東法

文□菅野先生墓表 瓮江川田剛。□題亡姪貞書後 学海依田百川。

○兄邦彦墓誌 鳳洲土屋弘。□題藤肥州読論語図 聚亭蒲生重章。

□詠仙術雜言、贈長瀬国手 長梅外。

詩○甲申除夜祭詩⑩。○漁棹図 枕山大沼厚。○題画鷹 芳南前

塚綱。○羣鶴図 同前。

⑩「甲申除夜祭詩」は、作者名が記されていないが、長梅外が「詠仙術雜言

贈長瀬国手」の文と併せて投稿したため、このような扱いがなされたもの

と思われ。

第五百五十集（十八年一月廿五日）宮、都、鶴、東文、東法

文□觀地獄図説 海南藤野正啓。□記氏家内膳事 緑洲長塩純卿。

□烈士詩伝序 省軒龜谷行。

詩○乙酉歲旦次森槐南韻 勺水日下寬。○雜感録ノ⑩ 星洲平戸

齋。○乙酉歲旦 竹海斎藤実穎。○同題 鶴峰鞍懸勇。○同 槐南

森泰。○同題 勺水日下寬。○歲抄書懷 鶴峰詩弱鞍懸勇。○春窓

對雨 旭斎佐藤有信警城人。○觀聽亭題詞 桑村柳原育寿。○植木

復軒西遊詩稿題詞 同前。○石山僑居二十絶録一 三国幽眠。○秋

夜 枕山大沼厚。○登捨身山山有僧空海遺跡七八及之 鳥尾得菴。

⑩この「ノ」は「一」の誤りと思われる。

第五百五十一集（十八年二月五日）宮、都、鶴、東文、東法

文□北游詩草叙 桜泉小牧昌業。□風松樓記 双峯佐藤精明。□

読里見八犬伝 鶴峰鞍懸勇。

詩○元旦口占 印南渡辺充。○詠杖 雪香犬塚敏。○詠史 平州

平戸齋。○湖亭對雪用東坡聚星堂韵二首 春濤森魯直。○信州途上

黃石岡本廬。○元旦探梅 醉石鎌田景弼。○王仁 鴨北宮本小一。

○秋柳有感 雲外高銳。○聞箕邦變報有感 裳川岩溪晋。

第五百五十二集（十八年二月十五日）宮、鶴、東文、東法

文□杉田觀梅記 葵亭蒲生重章。□記福島正則事 海南藤野正啓。

□書案翁公真蹟後 猗堂秋葉斐。

詩○乙酉人日与史館諸公會飲江東酒樓有作 勺水日下寬。○題潮

野草堂 全。○歲晚書事二首 錦湖朽木暉。○元旦 梅潭杉浦誠。

○新年書懷、次丹山韵 一六嚴公修。○庭梅先人所栽 白山高橋貞信

濃人。○歎老 聽秋伊藤介在東京。○浮沈 全人。○冬夜 桑村柳原

育寿。○秋夜楼上作 宕麓矢野湛在東京。○次家君与五岳秋谷二翁

唱和詩韻三首 長三洲。○失題 木下南漁紀伊人名共文。

第五百五十三集（十八年二月廿五日）宮、都、鶴、東文、東法

文□送黃公度赴任米國序 鹿門岡千仞。□破天荒齋詩卷序 竹海

斎藤実穎。

詩○同阪谷朗廬吊閔藤々陰墓並引 中洲三島毅。○寄題岩崎道兄

明香書屋 省軒龜谷行。○大雪所見 渡辺月前。○初春有述 向山

黃村。○觀潮 鎌田醉石。○醉題酒樓 長梅外。○一月三十日、

從本郷元街移居于中六番街、臨去題旧宅壁 敬香大江孝之。【十二

支咏】○鼠 三溪菊池純在大坂。○牛 同前。○虎 同前。○婦人

慈善会 雪香犬塚敏。○松雪和歌題 同前。

第五百五十四集（十八年三月五日）宮、都、鶴、東文、東法

文□老山翁墓表 迂堂巖谷修。□清華吟館記 松陽野口常共。□

題明虛象升詩幅 野口常共。

詩○曉起折梅 錦湖朽木暉。○江村春晚 同前。○春日訪友人居

同前。○兔 三溪菊池純。○龍 同前。○同城井錦原友石惕堂二君

過耶馬溪途上 西秋谷在豊前。○過古梅莊、花未開書感 伊藤聽秋。

○老梅 同前。○自小西門望崑山 吉嗣拜山在筑紫。○寒山寺 同前。

○常盤抱三子図 白山高橋貞信濃人。○靜女奏舞図 同前。○閑居

蓬水初鹿野銚。○香山客中步島本北州見贈韵、十年前余与北州同官

司法故及 中洲三島毅。○未開樑 向山黃村。

第五百五十五集（十八年三月十五日）宮、都、鶴、東文、東法

文□文章金鍼序 成斎重野安繹。○仏法本論序 中洲三島毅。

詩【十二支咏前集ノ続】○馬 三溪菊池純在大坂。○羊 同前。○

猿 同前。○金衣公子 竹海斎藤実穎。○一月十六日噺霞偶館発会

賦呈先生 同前。○寄題江原桂陰別有天地樓 鶴峰鞍懸勇。○移居

書懷、次福井學圃韵 敬香大江孝之。○喜雪賦古体二篇錄一 梅坪川島浩。

第五百五十六集（十八年三月廿五日） 宮、鶴、東文、東法

文□小谷茂德君墓碣銘 學海依田百川。□色川御蔭君行畧 東海色川誠一。□万年青図譜序 匏庵栗本鋤雲。

詩【十二支咏前集ノ続】○雞 三溪菊池純。○犬 同前。○猪 同前。○酒餽貴戲賦 竹海齋藤実穎。○余与岡本黄石及諸同志、謀將修星巖先生廿五周年祭祀、期已迫、因病不能赴、聊奠清酌薦羞之資、附以此詩 湖山小野長愿。○春夜 半洲平戸浩。

第五百五十七集（十八年四月五日） 宮、鶴、東文、東法

文□送丹島井安積三生序 鹿門岡千仞。○股野達軒翁七十寿序 學海依田百川。□文章奇觀統編叙 海南藤野正啓。

詩○甲申十一月、聞斯文学会三改選文学会幹、賦示諸君 長梅外。○冬月 雪香犬塚敏。

第五百五十八集（十八年四月十五日） 宮、鶴、東文、東法、武

文□黃石齋詩集序 中洲三島毅。○尊攘紀事序 成斎重野安釋。○贈西村君子俊序 淺見深。

詩○幽居吟 栗園 淺田宗伯。○登岳 秋雲華豊前古人。○太宰府途上 秋村柴幸阿波古人。○寄衣曲 巖伯牙清国桐郷人。○楊柳詞節錄 向山黃村。○淵明斜川図 同前。○謁史忠生公墓清国遊中作 吉嗣拝山在大宰府。○宿雲林寺 同前。

第五百五十九集（十八年四月廿五日） 宮、鶴、東文、東法、武

文 桑柘園記 恕軒信夫榮。□德川文昭公胞衣塚碑 襲亭蒲生重章。○墨江之飲槐南仿漁洋水絵園詩、成古六章、予因用紅橋冶春之

例別賦十二絶句、盖以借杼胸臆、非欲効顰西家也節錄 姚文棟清上海人。○次姚君做紅橋冶春詞韵博一餐併索同游諸氏之和節錄 関根痴堂。○次詩文詳解第九十六集所載荒野益堂詞宗梅雨之詩韻 松軒学人鳥竇出雲人。○春遊阻雨 栗園淺田宗伯。○次梁田悦巖先生須磨漁火瑤韵 鶴林沢田善。○龜戸村看梅 錦湖朽木暉。○東坡先生々々日置酒宝蘇齋、同諸子分韵賦詩、後數日堀川春江君聞而喜之、特作唐律一章見示、且許借其所藏壽蘇集一卷、次韵答謝 向山黃村。

第六百六十集（十八年五月五日） 宮、鶴、東文、東法、武

文□上高辻管公書 雪窓五弓久文。□題那珂梧棲鉄枷 穗峰四屋恒。□三浦義彰伝 破天荒齋松平康国。

詩○鳥尾君將赴浪華作此詩送其行 敬香中村正直。○送鳥尾得庵先生 韋菴岡本監輔。○王母輓詩 敬香大江孝之。○春初雜感次郡風谷韵 同前。○病中絶句 學圃福井繁。○春夕 同前。○訪宜洲翁席上分字得斜 省廬白石健。

第六百六十一集（十八年五月十五日） 宮、鶴、都、東文、東法、武

文□題形管生輝帖 迂堂巖谷修。□開花幽竹園記 竹海齋藤実穎。○佐藤松堂寿藏碑 青山塩谷時敏。□香秋山館集序 節宇龜山雲平。

詩○題藤公手栽松 雨田島地默雷。○晚春雨中 敬香大江孝之。○村居雜咏 省廬白石健。○原作詳解百五十九集黃村詩原作 春江堀川慎。○物部守屋 鐸山近藤殖在東京。○夜過德州 巖伯牙。○小園喜雨 錦湖朽木暉。

第六百六十二集（十八年五月廿五日） 宮、鶴、東文、東法、武

文□恕軒文鈔統編叙 中洲三島毅。□蕃諸君伝 桜泉小牧昌業。○書菱湖老人書後 拙軒村山淳。○題方正學擲筆図 錦山矢士勝之。○湖樓春日 星洲平戸齋。【雨牕無聊、聞内子説見八犬伝、戲作

二十首】○金碗孝吾 橋本蓉塘。○玉梓 同前。○伏姬 同前。○已卯三月陰曆与栗本砲庵同寓于濕上小樓、為花下十日之遊、作絕句二十首以代小記、語無詮次、興到筆隨不計工拙也 黃村向山榮。○墨堤書感 孤雲岡崎桂一。

第百六十三集 (十八年六月五日) 宮、鶴、東文、東法、武

文□大雅富岳図跋 雪窓五弓久文。□蓮池硯記 星海蒲生弘。□潮野草堂記 鶴峰較懸勇。□豐太閤忽必烈優劣論 松陽野口常共。

詩○犬塚信乃前集ノ統 橋本蓉塘。○濱路 同前。○濕上絶句二十首之統 黃村向山榮。○書感次高阪学処韻 敬香大江孝之。

第百六十四集 (十八年六月十五日) 宮、鶴、東文、東法、武

文□近世偉人伝序 瓮江川田剛。□東北記行叙 桜泉小牧昌業。□二松亭对 中洲三島毅。

詩○午睡偶成倣明人行路難 裴亭蒲生重章。○自題小照 橋本蓉塘。○犬川莊介前集統 同前。○沼蘭 同前。○犬山道節 同前。

○濕堤花下十日詩前集統 黃村向山榮。

第百六十五集 (十八年六月廿五日) 宮、鶴、東文、東法、武

文□常山々寺先生碑 敬宇中村正直。□記義猴事 恕軒信夫榮。□經濟概論叙 藍田股野琢。

詩○集陶雜句錄五 薨江川田剛。○曳手單節前集統 蓉塘橋本寧。○犬田小文吾 同前。○船蟲 同前。○謹歩日本中洲先生韵 洪英植朝鮮人。○同 魚允中同。○同 李鳳植同。○乙酉新年二首 桑村榊原育寿。○留別東京友人甲申十二月作 双尖鈴木民婦。○偶成 敬香大江孝之。○攀敬香詞長韵 双尖鈴木民婦。○双尖有次韵之作、僕亦倣攀 学圃福井繁。

第百六十六集 (十八年七月五日) 宮、鶴、東文、東法、武

文□故大学大承兼大博士大典医従五位佐藤先生碑 薨江川田剛。□夜雨寒燈書屋記 黃文勇。

詩○大坂毛野前集ノ統 蓉塘橋本寧。○犬飼現八 同前。○犬村大角 同前。○桜雲莊看花歌 羽峯南摩綱紀。

第百六十七集 (十八年七月十五日) 宮、鶴、都、東文、東法、武

文□送寺田望南為僧赴西京序 成斎重野安禪。□蜀道行旅図記 果堂植松彰。□古今文粹序 秋水竹村毅。

詩○雛衣前集統 蓉塘橋本寧。○犬江親兵衛 同前。○妙椿 同前。○江亭晚霽分韻 敬香大江孝之。○奉寄清吟上人 枕山大沼孝。○吞海樓雜詩樓在蒲 学圃福井繁。○恭聞農商務書記官奉命出視察州

県有作 同前。○墨堤春遊二首録一 雪香大塚敏。

第百六十八集 (十八年七月廿五日) 宮、鶴、東文、東法

文□角田桜岳墓銘 敬宇中村正直。□与杏南帆足翁 松陽野口常共。□秋霜餘銘序 用拙武居彪信濃人。

詩○里見氏八女前集統 蓉塘橋本寧。○、大和尚 同前。○里見義成 同前。○責猫 鴨北宮本小一。○次勁堂禪師原韻原作載在甲申九月五日發行詩文詳解 杜紹棠清人。○夏日山寺 学圃福井繁。

第百六十九集 (十八年八月五日) 宮、鶴、東文、東法

文□日本八大家文集叙 鴻斎石川英。□真心集序 秦山土方久元。□福田浩斎北越紀行題言 松陽野口常共。

詩○美人撲螢図 同前。○瀨田村所見 錦湖朽木暉。○五岳上人招飲賦呈 西秋谷。○題自画蘭竹 穀堂驚津宣光。○春日偶居竹雨渡辺嘉。○癸未重陽、大清節署與酒会歩黎星使韻乞政星使去年設登高会於上野故及二首録一 中洲三島毅。○癸未重九、黎欽差招飲、步其瑤韻却呈兼似坐中諸賢二首録一 秋琴長松幹。○黎公純斎重九宴

見招、謹步瑤韻 省軒龜谷行。○癸未重九集兩國文人、作莫酒之会於使署西樓賦此起興錄一 黎庶昌清人。○夏景冲澹疊韵抄三 学圃福井繁。

③「美人撲萤図」詩は、作者名が記されていないが、松陽野口常共が「福田浩齋北越紀行題言」の文と併せて投稿したため、このような扱いがなされたものと思われる。

第百七十集（十八年八月十五日） 宮、鶴、東文、東法

文□学橋大郷君墓碣銘 静斎隄正勝。□復在京有松生書 薇山西穀一。

詩○純齋黎欽差登高雅宴、席上步瑤韻、却呈、并似座中諸賢前集 一六巖谷修。○癸未重陽節黎公純齋見招、黎公有詩、客皆屬和、予亦効顰成二律錄一 成斎重野安釋。○九日黎公使招同諸名流作登高会、時家君出遊、余列席末、恭次公使詩韻、以奉謝 大来森泰。

○皇華使館西樓讌集、敬和節使韻、録奉座上諸公正削 黄超曾清人。○新秋夜坐二律 敬香大江孝之。○涼夕襟詠 学圃福井繁。○偶感同前。○江村夜帰 鈍堂土屋信佐倉人。

第百七十一集（十八年八月二十五日） 宮、鶴、東文、東法

文□德藏濱野君墓銘 中洲三島毅。□書頼山陽与今村綽夫牘後鹿峰西尾為忠。□送大森内務樞大書記官鍾一君奉命之欧洲 敬香大江孝之。

詩○送黒木欽堂省親于讃州 双尖鈴木民帰。○雜題 島田癸疑詠。第百七十二集（十八年九月五日） 宮、鶴、都、東文、東法

文□書群芳譜後贈杉山鶯谷 甕江川田剛。□山東玉篇叙 松陽野口常共。□村居独語叙 中洲三島毅。

詩○送精廬徳川侯游学欧洲 即山神波桓。○関口県令赴任静岡賦

此贈別 同前。○送王黍園遊雲州 星秋吉岡弘。○送広瀬判事義範之大坂 同前。○夏日散策于東台西湖間得一律 種竹本田幸。○送黒木欽堂帰郷 敬香大江孝之。○熊野山懷古 南漁木下共文紀伊人。○三憶仿香奩体第二 竹巷伊沢正路。○題画二首 履堂小櫻島養出雲人。○題山水画 松軒学人島寶。

第百七十三集（十八年九月十五日） 宮、鶴、東文、東法、国

文□宇喜多一蕙斎碑 秋琴長松幹。□夏永暈 鹿峰西尾為忠。□瓢先生伝 竹外犬塚敏。

詩○雜画十首第三 印南渡迎充。○松本暢判事見惠益梅賦謝四言 穀堂鷺津宣光故人。○題北海游草後 裳川岩溪晋。○洋詩二首 敬香大江孝之訳。

第百七十四集（十八年九月廿五日） 宮、鶴、東文、東法、国

文□吉井君墓表 秦山土方久元。□形管生輝帖叙 古香秋月種樹。□祭野口伯辰文 聚亭蒲生重章。○將遊奥羽、賦此留別諸友 錦湖朽木暉。○次韻錦湖賢弟留別 黄村向山榮。○送錦湖朽木君遊奥羽 枕山大沼厚。○花下十日詩第百六十四集統 黄村向山榮。○浮沈 聽秋伊藤介。○敝圃芍藥盛候、泉処黄村二兄見過、有廢和詩、因次其韵以鳴謝 匏庵栗本鯤。○華嚴瀑布日光ノ奇勝 石川桜所。○中禪寺湖水ナリ 同前。

第百七十五集（十八年十月五日） 宮、鶴、東文、東法、国

文□宝書龕記 竹海斎藤実穎。□英文手引草序 敬香大江孝之。詩○源石将胤富士野図。○拝雪江先生墓下 竹巷伊沢正路。○觀角兵衛獅子戯 三溪菊池純。○新涼読書 同前。○高田閑居 鳥尾得菴。○夫地歌題詩贈渡邊先生 檀溪新井伯揚。○洋詩一首 敬香大江孝之訳。

第百七十六集（十八年十月十五日） 宮、鶴、東文、東法、国

文□宝書龕記 竹海斎藤実穎。□英文手引草序 敬香大江孝之。詩○源石将胤富士野図。○拝雪江先生墓下 竹巷伊沢正路。○觀角兵衛獅子戯 三溪菊池純。○新涼読書 同前。○高田閑居 鳥尾得菴。○夫地歌題詩贈渡邊先生 檀溪新井伯揚。○洋詩一首 敬香大江孝之訳。

第百七十七集（十八年十月二十五日） 宮、鶴、東文、東法、国

文□宝書龕記 竹海斎藤実穎。□英文手引草序 敬香大江孝之。詩○源石将胤富士野図。○拝雪江先生墓下 竹巷伊沢正路。○觀角兵衛獅子戯 三溪菊池純。○新涼読書 同前。○高田閑居 鳥尾得菴。○夫地歌題詩贈渡邊先生 檀溪新井伯揚。○洋詩一首 敬香大江孝之訳。